

藩校 江戸時代の教育

武士が学んだ儒学思想

儒教の教え「五常」と「五倫」

「五常」

- ①仁 人を愛し思いやること「五常」のなかでも最高の徳目
 - ②義 利や欲にとらわれず、世のため人のために行動すること
 - ③礼 謙遜し相手に敬意を払って接すること
 - ④智 偏らずに幅広い知識や知恵を得て道理をわきまえる
 - ⑤信 人を欺かず約束を守り嘘をつかず誠実であること
- これら5つの教えを守れば「父子・君臣・夫婦・長幼・朋友」の人間関係「五倫」がうまくいくという考え

徳川尾張藩



江戸初期は一部の藩のみ
中期以降は二百数十校に増えた

藩校



武家の教育。儒学者を師とし、重臣や藩士に武芸とともに文の教養をさせた。**儒学**中心で中でも朱子学が尊ばれた。江戸幕府の官学信仰や武力ではなく道徳や礼儀によって社会秩序を守ろうとする学

藩校の最高学府

江戸の「昌平坂学問所」



藩校の模範で、藩士の中から優秀を選び留学させた藩もある。

- 藩校の中で設立が古いのは
- ・尾張藩「明倫堂」
(現在の県立明和高校 明倫中学と第一高等女子が前身)
 - ・会津藩「日新館」(現在は観光名所)

私塾



身分上の差はなく武士・庶民共に学ぶ。一般の教師の私宅に教場があり、漢字・習字・そろばん・国学・洋学を学ぶ。私立学校の前身。

洋学校



幕末から明治維新时期にかけ洋学が普及し、欧米の近代文化が導入され設けられた。西洋学で蘭学、西洋医学を学んだ。

女子



家庭内で教育が行われ、家庭外では屋敷奉公や女中の作法を学んだ。



寺子屋



庶民の教育。寺子屋の経営者を手習師匠と呼ぶ。「手習」に加え「読み物」幕末には読・書・算で明治5年学制以後の小学校に近づいている。

郷校



二種類あり、一つは武家を対象とした藩校の延長で小規模な藩校、もう一つは寺子屋と同様で領内の庶民のための教育を行った。